

201438044A

厚生労働科学研究委託費

革新的がん医療実用化研究事業

切除可能進行胃癌に対する網嚢切除の意義に関する研究

平成 26 年度 委託業務成果報告書

業務主任者 土岐 祐一郎

平成 27 (2015) 年 3 月

本報告書は、厚生労働省の厚生労働科学研究委託事業による委託業務として、土岐 祐一郎が実施した平成26年度「切除可能進行胃癌に対する網嚢切除の意義に関する研究」の成果を取りまとめたものです。

目 次

I. 委託業務成果報告（総括）

切除可能進行胃癌に対する網嚢切除の意義に関する研究に関する研究	---	1
土岐 祐一郎（大阪大学大学院医学系研究科）		

II. 委託業務成果報告（業務項目）

切除可能進行胃癌に対する網嚢切除の意義に関する研究に関する研究 プロジェクトの総合推進・臨床試験への患者登録	-----	5
黒川 幸典（大阪大学大学院医学系研究科）		
寺島 雅典（静岡県立静岡がんセンター）		
深川 剛生（国立がん研究センター中央病院）		
木村 豊（市立堺病院）		
福島 紀雅（山形県立中央病院）		
栗田 啓（国立病院機構四国がんセンター）		
高木 正和（静岡県立総合病院）		
西田 靖仙（恵佑会札幌病院）		
吉田 和弘（岐阜大学大学院医学系研究）		
二宮 基樹（広島市立広島市民病院）		
加治 正英（富山県立中央病院）		
和田 郁雄（都立墨東病院）		
布部 創也（がん研究会有明病院）		
藤原 義之（大阪府立成人病センター）		
西崎 正彦（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科）		
平原 典幸（島根大学大学院医学系研究科）		

III. 学会等発表実績

1.学会等における口頭・ポスター発表	-----	9
2.学会誌・雑誌等における論文掲載	-----	20

IV. 研究成果の刊行物・別刷 ----- 27

I. 委託業務成果報告（総括）

「切除可能進行胃癌に対する網嚢切除の意義に関する研究」

業務主任者又は担当責任者 土岐 祐一郎 大阪大学医学系研究科教授

研究要旨

肉眼的に漿膜下層（深達度 SS）あるいは漿膜への浸潤（深達度 SE）を有する切除可能胃癌に対して、手術時に横行結腸間膜前葉と脾被膜切除、いわゆる網嚢切除を追加することの優越性を、JCOG 胃がんグループの全 56 施設における多施設共同第 III 相試験により検証する。

主要評価項目は全生存期間、副次的評価項目は無再発生存期間、出血量、手術時間、手術合併症発生割合、術後補助化学療法有害事象発生割合とし、予定登録数は 1200 例、登録期間 5 年、追跡期間 5 年の予定である。

業務項目の担当責任者氏名・所属研究機関名
及び所属研究機関における職名

（委託業務成果報告（業務項目）の
場合は省略）

A. 研究目的

網嚢腔は、大網、小網、胃後壁、脾臓、横行結腸間膜前葉、胃脾間膜によって囲まれた空間で、胃癌細胞はまず網嚢腔内に散布され微小転移を来すと考えられていた。そこで網嚢腔表面を覆う腹膜を広範囲に切除することにより腹膜再発の予防を狙った術式が考案され、1980-90年代には進行胃癌の外科切除に際して日本全国で広く行われていた。

網嚢切除は煩雑かつ高度の技術を要するものの、これまで有用性に関する臨床試験のエビデンスがないまま慣習的に行われてきたこともあり、最近では網嚢切除を併施する施設はむしろ少数派となってきた。そこで我々は200例規模の多施設共同RCTを実施したところ、網嚢非切除群（n=103）の3年生存割合79%に対し、網嚢切除群（n=104）の3年生存割合は86%と良好な傾向を示していた（Fujita J, et al. Gastric Cancer 2012）。サブ解析の結果では、網嚢内に限局した腹膜播種を生じると考えられている胃後壁病変では両群間に差を認めなかったのに対し、それ以外の病変で両群間に大きな差を認めたことから、網嚢切除には微小な播種の予防的切除という古い考えでは説明できない治療上のメリットがある可能性も否定できなくなった。

本研究では、進行胃癌に対して胃切除時

に網嚢切除を追加することで全生存期間が延長するか否かを大規模ランダム化比較第III相試験で検証することを目的とする。

B. 研究方法

① 選択規準

- 1) 組織学的に胃癌、術前深達度が SS/SE
- 2) cN0-2 H0 P0 M0, bulky N2 を認めず、網嚢切除が可能
- 3) R0 切除または洗浄細胞診陽性(CY1)のみによる R1 切除が可能
- 4) 食道浸潤がないか、食道浸潤が 3 cm 以内
- 5) 肉眼型が 4 型または大型 (8 cm 以上) の 3 型ではない
- 6) 上腹部手術・腸管切除を伴う手術の既往がない
- 7) 化学療法や放射線治療の既往がない
- 8) 20 歳以上 80 歳以下、PS (ECOG) が 0 - 1、BMI 30 未満
- 9) 骨髄・肝・腎機能に関する臨床検査値の条件を満たす
- 10) 患者本人からの文書同意

② 治療計画

術前の一次登録後、術中に適格規準を再確認の上、二次登録を行って網嚢非切除群か網嚢切除群にランダム割付する。両群とも、

開腹による幽門側胃切除または胃全摘を行い、大網と小網を切除し、D2 郭清を行う。網嚢切除群では、横行結腸間膜前葉と降被膜を切除し、網嚢をできる限り切除する(手術手技の詳細はプロコールに記載)。術後病理所見にて pStage II、IIIA、IIIB かつ R0 と診断された場合、術後補助化学療法として 1 年間 S-1 の内服を行う。

③ 統計学的事項

本研究は、網嚢切除を追加することの優越性の検証を目的とした第 III 相試験であり、primary endpoint は全生存期間、secondary endpoints は、無再発生存期間、出血量、手術時間、手術合併症発生割合、術後補助化学療法の有害事象発生割合である。

網嚢非切除群の 5 年生存割合を 75%と仮定し、網嚢切除群が 5%上回るか否かを検証、登録 5 年、追跡 5 年、有意水準片側 5%、検出力 80%とすると、Schoenfeld & Richter の方法による必要解析対象数は 1 群 582 例となる。若干の追跡不能例を考慮して予定二次登録数を 1,200 例とした。

④解析方法

主たる解析における両群の全生存期間が等しいという帰無仮説の検定は、二次登録全例を対象に、施設以外の割付調整因子を用いた層別ログランク検定により行う。網嚢切除群が網嚢非切除群を統計学的に有意に上回った場合、網嚢切除がより有用な治療法であると結論する。有意に上回らなかった場合は、網嚢非切除が引き続き有用な治療法であると結論する。有効性の中間解析は、登録中と登録終了後に計 2 回行う。α 消費関数を用いて多重性の調整を行う。

(倫理面への配慮)

参加患者の安全性確保については、適格条件やプロコール治療の中止変更規準を厳しく設けており、さらに、半年に一度の定期モニタリングにより治療実施状況・毒性の発現状況等を確認すると共に臨床試験に参加する各医療機関へのフィードバックを行っていることから、試験参加による不利益は最小化される。また、「臨床研究に関する倫理指針」およびヘルシンキ宣言などの国際的倫理原則を遵

守する。

C. 研究結果

本研究は、JCOG 胃がんグループの全 56 施設において実施されている。

本研究の研究実施計画書は、JCOG1001 として、2010 年 5 月に JCOG プロコール審査委員会にて承認され、同 6 月に患者登録が開始された。登録ペースは非常に順調であり、2014 年 12 月 21 日現在で 1148 例の二次登録がなされている。今年度中には 1200 例の登録が完了となる見込みであるが、手術後に 1 年間の補助化学療法を要するため、全登録症例のプロコール治療が完遂するのはその 1 年後となる。

D. 考察

本研究は、当初の計画どおり順調に進行中である。

E. 結論

本研究は、当初の計画どおり順調に進行中である。

F. 健康危険情報

(委託業務成果報告(業務項目)には記入せずに、委託業務成果報告(総括)にまとめて記入)

これまでのモニタリングでは計 7 例(0.6%)の治療関連死が報告されているが、網嚢非切除群 6 例、網嚢切除群 1 例と、網嚢切除自体との因果関係は否定的であり、いずれも適切に効果・安全性評価委員会に報告され情報共有がなされている。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Tanaka K., Takiguchi S., Miyashiro I., Hirao M., Yamamoto K., Imamura H., Yano M., Mori M., Doki Y. Impact of reconstruction method on visceral fat change after distal gastrectomy: results from a randomized controlled trial comparing Billroth I reconstruction and roux-en-Y reconstruction. *Surgery* 155:424-431, 2014
2. Saito T., Kurokawa Y., Takiguchi S., Masaki M., Doki Y. Current status of function-preserving surgery for gastric

cancer. World J Gastroenterol 20:17297-17304,2014

3. Wada N., Kurokawa Y., Takiguchi S., Takahashi T., Yamasaki M., Miyata H., Nakajima K., Mori M., Doki Y. Feasibility of laparoscopy-assisted total gastrectomy in patients with clinical stage I gastric cancer. Gastric Cancer 17:137-140,2014

4. Endo S., Takiguchi S., Miyazaki Y., Nishikawa K., Imamura H., Takachi K., Kimura Y., Takeno A., Tamura S., Mori M., Doki Y. Efficacy of endoscopic gastroduodenal stenting for gastric outlet obstruction due to unresectable advanced gastric cancer: a prospective multicenter study. J Surg Oncol 109:208-212,2014

5. Mikami J, Kurokawa Y, Miyazaki Y, Takahashi T, Yamasaki M, Miyata H, Nakajima K, Takiguchi S, Mori M, Doki Y. Postoperative gastrectomy outcomes in octogenarians with gastric cancer. Surg Today (in press)

6. Saito T, Kurokawa Y, Takiguchi S, Miyazaki Y, Takahashi T, Yamasaki M, Miyata H, Nakajima K, Mori M, Doki Y. Accuracy of multidetector-row CT in diagnosing lymph node metastasis in patients with gastric cancer. Eur Radiol (in press)

7. Hamakawa T, Kukita Y, Kurokawa Y, Miyazaki Y, Takahashi T, Yamasaki M, Miyata H, Nakajima K, Taniguchi K, Takiguchi S, Mori M, Doki Y, Kato K. Monitoring gastric cancer progression with circulating tumour DNA. Br J Cancer 112:352-6,2015

8. Takiguchi S, Takata A, Murakami K, Miyazaki Y, Yanagimoto Y, Kurokawa Y, Takahashi T, Mori M, Doki Y. Clinical application of ghrelin administration for gastric cancer patients undergoing gastrectomy. Gastric Cancer 17:200-5,2014

9. Fujita J, Takiguchi S, Nishikawa K, Kimura Y, Imamura H, Tamura S, Ebisui C, Kishi K, Fujitani K, Kurokawa Y, Mori M, Doki Y. Randomized controlled trial of the LigaSure vessel sealing system versus conventional open gastrectomy for gastric cancer. Surg Today 44:1723-9,2014

10. Takata A, Kurokawa Y, Fujiwara Y, Nakamura Y, Takahashi T, Yamasaki M, Miyata H, Nakajima K, Takiguchi S, Mori M, Doki Y. Prognostic Value of CEA and CK20 mRNA in the Peritoneal Lavage Fluid of Patients Undergoing Curative Surgery for Gastric Cancer. World J Surg 38:1107-11,2014

2. 学会発表

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1.特許取得
特になし

2.実用新案登録
特になし

3.その他

II. 委託業務成果報告（業務項目）

「切除可能進行胃癌に対する網嚢切除の意義に関する研究」

研究分担者

研究要旨

肉眼的に漿膜下層（深達度 SS）あるいは漿膜への浸潤（深達度 SE）を有する切除可能胃癌に対して、手術時に横行結腸間膜前葉と脾被膜切除、いわゆる網嚢切除を追加することの優越性を、JCOG 胃がんグループの全 56 施設における多施設共同第 III 相試験により検証する。

主要評価項目は全生存期間、副次的評価項目は無再発生存期間、出血量、手術時間、手術合併症発生割合、術後補助化学療法有害事象発生割合とし、予定登録数は 1200 例、登録期間 5 年、追跡期間 5 年の予定である。

A. 研究目的

網嚢腔は、大網、小網、胃後壁、脾臓、横行結腸間膜前葉、胃脾間膜によって囲まれた空間で、胃癌細胞はまず網嚢腔内に散布され微小転移を来すと考えられていた。そこで網嚢腔表面を覆う腹膜を広範囲に切除することにより腹膜再発の予防を狙った術式が考案され、1980-90年代には進行胃癌の外科切除に際して日本全国で広く行われていた。

網嚢切除は煩雑かつ高度の技術を要するものの、これまで有用性に関する臨床試験のエビデンスがないまま慣習的に行われてきたこともあり、最近では網嚢切除を併施する施設はむしろ少数派となってきた。そこで我々は 200 例規模の多施設共同 RCT を実施したところ、網嚢非切除群 (n=103) の 3 年生存割合 79% に対し、網嚢切除群 (n=104) の 3 年生存割合は 86% と良好な傾向を示していた (Fujita J, et al. Gastric Cancer 2012)。サブ解析の結果では、網嚢内に限局した腹膜播種を生じると考えられている胃後壁病変では両群間に差を認めなかったのに対し、それ以外の病変で両群間に大きな差を認めたことから、網嚢切除には微小な播種の予防的切除という古い考えでは説明できない治療上のメリットがある可能性も否定できなくなった。

本研究では、進行胃癌に対して胃切除時に網嚢切除を追加することで全生存期間が延長するか否かを大規模ランダム化比較第 III 相試験で検証することを目的とする。

B. 研究方法

① 選択規準

- 1) 組織学的に胃癌、術前深達度が SS/SE
- 2) cN0-2 H0 P0 M0。bulky N2 を認めず、網嚢切除が可能
- 3) R0 切除または洗浄細胞診陽性 (CY1) のみによる R1 切除が可能
- 4) 食道浸潤がないか、食道浸潤が 3 cm 以内
- 5) 肉眼型が 4 型または大型 (8 cm 以上) の 3 型ではない
- 6) 上腹部手術・腸管切除を伴う手術の既往がない
- 7) 化学療法や放射線治療の既往がない
- 8) 20 歳以上 80 歳以下、PS (ECOG) が 0 - 1、BMI 30 未満
- 9) 骨髄・肝・腎機能に関する臨床検査値の条件を満たす
- 10) 患者本人からの文書同意

② 治療計画

術前の一次登録後、術中に適格規準を再確認の上、二次登録を行って網嚢非切除群か網嚢切除群にランダム割付する。両群とも、開腹による幽門側胃切除または胃全摘を行い、大網と小網を切除し、D2 郭清を行う。網嚢切除群では、横行結腸間膜前葉と脾被膜を切除し、網嚢をできる限り切除する (手術手技の詳細はプロコールに記載)。術後病理所見にて pStage II、IIIA、IIIB かつ R0 と診断された場合、術後補助化学療法として 1 年間 S-1 の内服を行う。

③ 統計学的事項

本研究は、網嚢切除を追加することの優越性の検証を目的とした第 III 相試験であり、

primary endpoint は全生存期間、secondary endpoints は、無再発生存期間、出血量、手術時間、手術合併症発生割合、術後補助化学療法の有害事象発生割合である。

網膜非切除群の 5 年生存割合を 75%と仮定し、網膜切除群が 5%上回るか否かを検証、登録 5 年、追跡 5 年、有意水準片側 5%、検出力 80%とすると、Schoenfeld & Richter の方法による必要解析対象数は 1 群 582 例となる。若干の追跡不能例を考慮して予定二次登録数を 1,200 例とした。

④解析方法

主たる解析における両群の全生存期間が等しいという帰無仮説の検定は、二次登録全例を対象に、施設以外の割付調整因子を用いた層別ログランク検定により行う。網膜切除群が網膜非切除群を統計学的に有意に上回った場合、網膜切除がより有用な治療法であると結論する。有意に上回らなかった場合は、網膜非切除が引き続き有用な治療法であると結論する。有効性の中間解析は、登録中と登録終了後に計 2 回行う。α 消費関数を用いて多重性の調整を行う。

(倫理面への配慮)

参加患者の安全性確保については、適格条件やプロトコール治療の中止変更規準を厳しく設けており、さらに、半年に一度の定期モニタリングにより治療実施状況・毒性の発現状況等を確認すると共に臨床試験に参加する各医療機関へのフィードバックを行っていることから、試験参加による不利益は最小化される。

また、「臨床研究に関する倫理指針」およびヘルシンキ宣言などの国際的倫理原則を遵守する。

C. 研究結果

本研究は、JCOG 胃がんグループの全 56 施設において実施されている。

本研究の研究実施計画書は、JCOG1001 として、2010 年 5 月に JCOG プロトコール審査委員会にて承認され、同 6 月に患者登録が開始された。登録ペースは非常に順調であり、2014 年 12 月 21 日現在で 1148 例の二次登録がなされている。今年度中には 1200 例の登録が完了となる見込みであるが、手術後

に 1 年間の補助化学療法を要するため、全登録症例のプロトコール治療が完遂するのはその 1 年後となる。

D. 考察

本研究は、当初の計画どおり順調に進行中である。

E. 結論

本研究は、当初の計画どおり順調に進行中である。

F. 健康危険情報

(委託業務成果報告(業務項目)には記入せずに、委託業務成果報告(総括)にまとめて記入)

これまでのモニタリングでは計 7 例 (0.6%) の治療関連死が報告されているが、網膜非切除群 6 例、網膜切除群 1 例と、網膜切除自体との因果関係は否定的であり、いずれも適切に効果・安全性評価委員会に報告され情報共有がなされている。

G. 研究発表

1. 論文発表

1. Takahari D, Hamaguchi T, Yoshimura K, Katai H, Ito S, Fuse N, Konishi M, Yasui H, Terashima M, Goto M, Tanigawa N, Shirao K, Sano T, Sasako M Survival analysis of adjuvant chemotherapy with S-1 plus cisplatin for stage III gastric cancer. Gastric Cancer 17 : 383-386 · 2014

2. Ohashi M, Morita S, Fukagawa T, Kushima R, Katai H. Surgical treatment of non-early gastric remnant carcinoma developing after distal gastrectomy for gastric cancer. J Surg Oncol. 2014 Aug 30.

3. Endo S, Takiguchi S, Miyazaki Y, Nishikawa K, Kawabata R, Takachi K, Kimura Y, Takeno A, Tamura S, Mori M, Doki Y Efficacy of endoscopic gastroduodenal stenting for gastric

outlet obstruction due to unresectable advanced gastric cancer: A prospective multicenter study J Surg Oncol 109(3):208-212・2014

4. Tsuburaya A, Yoshida K, Kobayashi M, Yoshino S, Takahashi M, Takiguchi N, Tanabe K, Takahashi N, Imamura H, Tatsumoto N, Hara H, Nishikawa K, Fukushima R, Nozaki I, Kojima H, Miyashita Y, Oba K, Buyse M, Morita M, Sakamoto J. Sequential paclitaxel followed by tegafur and uracil (UFT) or S-1 versus UFT or S-1 monotherapy as adjuvant chemotherapy for T4a/b gastric cancer (SAMIT): a phase 3 factorial randomised controlled trial. Lancet Oncology 15:886-93 2014

5. 奥村直樹、棚橋利行、山口和也、吉田和弘胃癌-高齢者の胃癌治療-消化器外科 37(9):1409-1415, 2014

6. Hirabayashi S, Kosugi S, Isobe Y, Nashimoto A, Oda I, Hayashi K, Miyashiro I, Tsujitani S, Kodera Y, Seto YO, Furukawa H, Ono H, Tanabe S, Kaminishi M, Nunobe S, Fukagawa T, Matsuo R, Nagai T, Katai H, Wakai T, Akazawa K.

Development and external validation of a nomogram for overall survival after curative resection in serosa-negative, locally advanced gastric cancer. Ann Oncol. 25(6):1179-84. 2014,

2. 学会発表

1. 寺島雅典、徳永正則、谷澤豊、坂東悦郎、川村泰一、杉沢徳彦、幕内梨恵、三木友一朗、後藤裕信、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦 ロボット支援胃切除術の安全性を評価する臨床第 II 相試験 第 114 回日本

外科学会定期学術集会 口頭 2014 年 4 月

2. 深川剛生、片井均、森田信司、前田将宏、吉澤奈央進行胃癌に対する集学的治療第 114 回日本外科学会総会 2014 年 4 月

3. Kimura Y, Fujitani K, Tamura S, Matsuyama J, Imamura H, Fujita J, Iijima S, Ueda S, Shimokawa T, Kurokawa Y, Satoh T, Tsujinaka T, Furukawa H Phase II feasibility study of adjuvant S-1 plus docetaxel repeated for 6 months as adjuvant chemotherapy for Stage III gastric cancer after curative D2 gastrectomy (OGSG 1002) European Society for Medical Oncology 16th World Congress on Gastrointestinal Cancer 2014 年 5 月

4. 西田靖仙、細川正夫 2 人体制でおこなう胃癌手術における膈上縁リンパ節郭清のポイント第 76 回日本臨床外科学会総会 2014 年 11 月

5. 山口和也、久野真史、市川賢吾、棚橋利行、八幡和憲、今井寿、佐々木義之、田中善宏、奥村直樹、松橋延壽、野中健一、高橋孝夫、長田真二、吉田和弘腹腔鏡下胃切除術の手術成績と予後. 第 86 回日本胃癌学会総会 2014 年 3 月

6. 布部創也、比企直樹、大橋学、峯真司、渡邊雅之、齋浦明夫、上野雅資、佐野武、山口俊晴 胃全摘術第 114 回日本外科学会定期学術集会 2014 年 4 月

7. 高津有紀子、比企直樹、布部創也、大橋学、佐野武、山口俊晴大動脈リンパ節転移を伴う高度進行胃癌に対する術前化学療法+外科切除治療の検討第 114 回日本外科学会定期学術集会 2014 年 4 月

8. 西崎正彦 黒田新士 菊地覚次 桑田和也 香川俊輔 白川靖博 藤原俊義ロボット支援下胃切除術における郭清と体腔内手縫い吻合第 27 回日本内視鏡外科学会総会 2014 年 10 月

H. 知的財産権の出願・登録状況 (予定を含む。)

1. 特許取得
特になし

2.実用新案登録
特になし

3.その他

III. 学会等発表実績

様式第19

学会等発表実績

委託業務題目「切除可能進行胃癌に対する網膜切除の意義に関する研究」

1. 学会等における口頭・ポスター発表

発表した成果（発表題目）	口頭・ポスター発表の別	発表者氏名	発表した場所（学会等名）	発表した時期・場所	国内・外の別
ロボット支援胃切除術の安全性を評価する臨床第II相試験	口頭	寺島雅典、徳永正則、谷澤豊、坂東悦郎、川村泰一、杉沢徳彦、幕内梨恵、三木友一朗、後藤裕信、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦	第114回日本外科学会定期学術集会	2014年4月 於：京都市	国内
進行胃癌治療切除症例における術前栄養状態と治療成績の検討	口頭	川村泰一、杉沢徳彦、三木友一朗、幕内梨恵、徳永正則、谷澤豊、坂東悦郎、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典	第114回日本外科学会定期学術集会	2014年4月 於：京都市	国内
胃癌におけるpStageで層別化したcStageと生存転帰との相関—cStageは術前化学療法症例選択の指標となりうるか？	口頭	坂東悦郎、幕内梨恵、三木友一朗、徳永正則、谷澤豊、川村泰一、絹笠祐介、金本秀行、上坂克彦、寺島雅典	第100回日本消化器病学会総会	2014年4月 於：東京	国内
Survivin expression in peripheral blood as a prognostic marker in patients with gastric cancer.	ポスター	Masanori Terashima, Yushi Yamakawa, Keiichi Hatakeyama, Yuichiro Miki, Rie Makuuchi, Shinsaku Honda, Taichi Tatsubayashi, Masanori Tokunaga, Yutaka Tanizawa, Etsuro Bando, Taiichi Kawamura, Keiichi Oshima, Toru Mochizuki	2014 ASCO Annual Meeting	2014年5月 於：シカゴ	国外
胃癌におけるリンパ節郭清のポイントと術中トラブル対処法	口頭	寺島雅典	第69回日本消化器外科学会総会	2014年7月 於：郡山市	国内

胃癌における extranodal metastasisの意義	ポスター	坂東 悦郎、徳永 正則、谷澤 豊、川村 泰一、絹笠 祐介、上坂 克彦、杉野 隆、中島 孝、寺島 雅典	第69回日本消化器外科学会総会	2014年7月 於：郡山市	国内
進行胃癌に対する外科治療戦略	口頭	寺島雅典	第52回日本癌治療学会学術集会	2014年8月 於：横浜市	国内
Prognostic significance of survivin expression in patients with gastric cancer	ポスター	M. Terashima, K. Hatakeyama, Y. Yamakawa, Y. Miki, R. Makuuchi, S. Honda, T. Tatsubayashi, M. Tokunaga, Y. Tanizawa, E. Bando, T. Kawamura, K. Oshima, T. Mochizuki	ESMO 2014	2014年9月 於：マドリッド	国外
静岡がんセンターにおけるロボット支援胃切除術	口頭	徳永 正則、幕内 梨恵、三木 友一朗、谷澤 豊、坂東 悦郎、川村 泰一、絹笠 祐介、上坂 克彦、寺島 雅典	第27回日本内視鏡外科学会総会	2014年10月 於：盛岡市	国内
ロボット支援下胃切除術による動作制限の克服	口頭	寺島雅典	第27回日本内視鏡外科学会総会	2014年10月 於：盛岡市	国内
胃癌における腹腔内洗浄細胞診の術中迅速診断と最終診断の比較	口頭	坂東悦郎、谷澤 豊、寺島 雅典	第12回日本消化器外科学会大会	2014年10月 於：神戸市	国内
本邦から発信する胃癌術前化学療法のエビデンス-JCOG試験から-	口頭	徳永 正則、寺島 雅典、伊藤誠二、岩崎善毅、円谷 彰、中村健一、朴 成和、佐野武、笹子三津留	第76回日本臨床外科学会総会	2014年11月 於：郡山市	国内

鏡視下手術から学ぶ開腹手術のリンパ節郭清	口頭	寺島 雅典、大森 隼人、高木航、平田史子、本田晋策、辰林太一、三木 友一朗、幕内 梨恵、徳永 正則、谷澤 豊、坂東 悦郎、川村 泰一、綿笠 祐介、上坂 克彦	第76回日本臨床外科学会総会	2014年11月 於：郡山市	国内
Robotic gastrectomy with D2 lymphadenectomy for gastric cancer	口頭	Terashima Masanori	IASGO 2014 24th World Congress of the International Association of Surgeons, Gastroenterologists and Oncologists	2014年12月 於：ウィーン	国外
Risk factors for peritoneal recurrence in serosa-negative gastric cancer.	ポスター	Hayato Omori, Yuichiro Miki, Wataru Takagi, Fumiko Hirata, Taichi Tatsubayashi, Shinsaku Honda, Rie Makuuchi, Masanori Tokunaga, Yutaka Tanizawa, Etsuro Bando, Taiichi Kawamura, Masanori Terashima	2015 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium	2015年1月 於：サンフランシスコ	国外
A phase II study of systemic chemotherapy with docetaxel, cisplatin, and S-1 (DCS) followed by gastrectomy with D2 plus para-aortic lymph node (PAN) dissection for gastric cancer with extensive lymph node metastasis (ELM): Japan Clinical Oncology Group Study JCOG1002.	ポスター	Seiji Ito, Takeshi Sano, Hiroshi Katayama, Junki Mizusawa, Daisuke Takahari, Mitsuru Sasako, Hitoshi Katai, Yoichi Tanaka, Takahiro Kinoshita, Masanori Terashima, Atsushi Nashimoto, Hiroki Yamaue, Norimasa Fukushima, Makoto Yamada, Yoshiyuki Fujiwara, Yutaka Kimura, Takeshi Azuma, Tsunehiro Yoshimura	2015 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium	2015年1月 於：サンフランシスコ	国外

Multimomics profiling for gastric cancer using high-tech omics-based patient evaluation (HOPE).	ポスター	Masanori Terashima, Keiichi Oshima, Masatoshi Kusahara, Kennichi Urakami, Masanori Tokunaga, Yutaka Tanizawa, Etsuro Bando, Taiichi Kawamura, Rie Makuuchi, Yuichiro Miki, Keiichi Hatakeyama, Ken Yamaguchi	2015 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium	2015年1月 於：サンフランシスコ	国外
Histological evaluation of tumor response in metastatic lymph node after preoperative chemotherapy for gastric cancer.	ポスター	Shinsaku Honda, Yuichiro Miki, Yutaka Tanizawa, Wataru Takagi, Fumiko Hirata, Hayato Omori, Taichi Tatsubayashi, Rie Makuuchi, Masanori Tokunaga, Etsuro Bando, Taiichi Kawamura, Takashi Nakajima, Masanori Terashima	2015 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium	2015年1月 於：サンフランシスコ	国外
The survival outcome after hepatic resection in patients with liver metastasis from gastric cancer.	ポスター	Taichi Tatsubayashi, Yuichiro Miki, Wataru Takagi, Fumiko Hirata, Hayato Omori, Shinsaku Honda, Yutaka Rie Makuuchi, Masanori Tokunaga, Tanizawa, Etsuro Bando, Taiichi Kawamura, Masanori Terashima	2015 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium	2015年1月 於：サンフランシスコ	国外
Effect of clinical stage on survival outcome in patients with pathological stage I gastric cancer.	ポスター	Masanori Tokunaga, Rie Makuuchi, Yuichiro Miki, Yutaka Tanizawa, Etsuro Bando, Taiichi Kawamura, Masanori Terashima	2015 ASCO Gastrointestinal Cancers Symposium	2015年1月 於：サンフランシスコ	国外
進行胃癌に対する集学的治療	口演	深川剛生、片井均、森田信司、前田将宏、吉澤奈央	第114回日本外科学会総会	2014年4月4日 京都	国内

私はこちら教えている	ランチョンセミナー	深川剛生、片井均、森田信司、前田将宏、吉澤奈央	第114回日本外科学会総会	2014年4月5日 京都	国内
General rules of Gastric Cancer	口演	深川剛生	第4回日本キューバ科学交流委員会	2014年5月6日 ハバナ	国外
高度リンパ節転移を伴う進行胃癌症例に対する治療戦略	口演	深川剛生、片井均、森田信司、和田剛幸、藤原久貴	第23回日本がん転移学会総会	2014年7月11日 金沢	国内
胃癌における大動脈周囲リンパ節郭清のポイントと術中トラブル対処法	口演	深川剛生、和田剛幸、藤原久貴、森田信司、片井均	第69回日本消化器外科学会総会	2014年7月16日 郡山	国内
胃癌手術のNEXT STAGE	ランチョンセミナー	深川剛生	第69回日本消化器外科学会総会	2014年7月17日 郡山	国内
食道胃接合部癌に対する下縦隔郭清のコツとピットフォール	口演	深川剛生、和田剛幸、藤原久貴、森田信司、片井均	第88回日本胃癌学会総会	2015年3月5日 広島	国内
次代に継承するNAC後大動脈周囲リンパ節郭清術	口演	深川剛生、和田剛幸、藤原久貴、森田信司、片井均	第88回日本胃癌学会総会	2015年3月6日 広島	国内

NAC後大動脈周囲リンパ節郭清術の位置づけ	口演	深川剛生、和田剛幸、藤原久貴、森田信司、片井均	第88回日本胃癌学会総会	2015年3月6日広島	国内
残胃癌の治療成績と臨床的問題	口演	深川剛生、和田剛幸、藤原久貴、森田信司、片井均	第88回日本胃癌学会総会	2015年3月6日広島	国内
Phase II feasibility study of adjuvant S-1 plus docetaxel repeated for 6 months as adjuvant chemotherapy for Stage III gastric cancer after curative D2 gastrectomy (OGSG 1002)	ポスター	Kimura Y, Fujitani K, Tamura S, Matsuyama J, Imamura H, Fujita J, Iijima S, Ueda S, Shimokawa T, Kurokawa Y, Satoh T, Tsujinaka T, Furukawa H	European Society for Medical Oncology 16th World Congress on Gastrointestinal Cancer	2014年5月 於: Barcelona	国外
Appropriate extent of abdominal lymphadenectomy for advanced Siewert type II adenocarcinoma of the cardia from the aspect of abdominal nodal spread: a multicenter retrospective study	ポスター	Kimura Y, Fujitani K, Miyashiro I, Mikata S, Tamura S, Imamura H, Hara J, Kurokawa Y, Fujita J, Nishikawa K, Takiguchi S, Mori M, Doki Y	14th World Congress of the International Society for Diseases of the Esophagus (ISDE)	2014年5月 於: Vancouver	国外
Evaluation of the effects of postoperative oral nutrition support on body weight in gastric cancer patients by using an elemental diet: A randomized study	ポスター	Nishikawa K, Kishi K, Inoue K, Matsuyama J, Akamaru Y, Kimura Y, Tamura S, Kawabata R, Kawada J, Fujiwara Y, Kawase T, Fukui J, Takagi M, Takeno A, Shimokawa T, Imamura H	2014 American Society of Clinical Oncology -Gastrointestinal Cancers Symposium	2014年1月 於: San Francisco	国外
Potential predictive markers of chemotherapy for advanced gastric cancer: Biomarker study in GC0301/TOP-002, randomized phase III study of irinotecan plus S-1 versus S-1	ポスター	Sugimoto N, Tsuburaya A, Kawabata R, Nishikawa K, Imamoto H, Tsujinaka T, Esaki T, Horita Y, Kimura Y, Fujiya T, Takayama O, Oono R, Yabusaki H, Taguri M, Morita S, Koizumi W, Tan P, Ninomiya M, Furukawa H, Sasako M	2014 American Society of Clinical Oncology -Gastrointestinal Cancers Symposium	2014年1月 於: San Francisco	国外

Randomized phase II study of CPT-11 versus PTX versus each combination chemotherapy with S-1 in patients with advanced gastric cancer refractory to S-1 or S-1 plus CDDP	ポスター	Kawase, Imamura H, Gotoh M, Kimura Y, Ueda S, Matsuyama J, Nishikawa K, Sugimoto N, Fujita J, Tamura T, Fukushima N, Kawabata R, Kurokawa Y, Shimokawa T, Sakai D, Tsujinaka T, Furukawa H	2014 American Society of Clinical Oncology (ASCO) Annual Meeting	2014年5月 於: Chicago	国外
Evaluation of oral, nutritional support by using an elemental diet on postoperative body weight in gastric cancer patients: a randomized clinical trial	ポスター	Kishi K, Nishikawa K, Inoue K, Matsuyama J, Akamaru Y, Kimura Y, Tamura S, Shimokawa T, Imamura H	36th ESPEN Congress	2014年9月 於: Geneva	国外
HER2 陽性胃癌に対する trastuzumab併用化学療法の経験	ポスター	木村豊、川瀬朋乃、川端良平、星野宏光、山村順、池田直樹、中田健、神垣俊二、山本為義、福永睦、大里浩樹	第86回日本胃癌学会総会	2014年3月 於: 横浜市	国内
胃癌肝転移に対する定位的放射線治療 (SRT)	口頭	木村豊、藤田淳也、藤田正一郎、谷口博一、山田優二、香川一史、門田卓士	第86回日本胃癌学会総会	2014年3月 於: 横浜市	国内
当院におけるHER2陽性胃癌に対する治療経験	口頭	木村豊、川瀬朋乃、川端良平、中田健、山本為義、山村順、神垣俊二、星野宏光、池田直樹、福永睦、大里浩樹	第114回日本外科学会定期学術集会	2014年4月 於: 京都市	国内
Stage III 胃癌に対する docetaxel + S-1による術後補助化学療法 の第2相試験 (OGSG0604)	口頭	木村豊、田村茂行、藤谷和正、松山仁、辻毅、飯島正平、川瀬朋乃、井上健太郎、小林研二、黒川幸典、下川敏雄、古河洋	第52回日本癌治療学会学術集会	2014年8月 於: 横浜市	国内
進行胃癌に対する網膜切除の意義に関するランダム化比較試験 (最終生存解析) ~ガイドラインでの取り扱い~	口頭	木村豊、黒川幸典、瀧口修司、藤田淳也、今村博司、平尾素宏、藤原義之、飯島正平、森 正樹、土岐祐一郎	第69回日本消化器外科学会総会	2014年7月 於: 郡山市	国内